

研究区分	教員特別研究推進 教育推進
------	---------------

研究テーマ	生きたデータを価値ある情報に変換し、迅速な意思決定を可能にする薬学人創生教育				
研究組織	代表者	所属・職名	薬学部・教授	氏名	近藤 啓
	研究分担者	所属・職名	薬学部・薬学研究院	氏名	全教員
		所属・職名		氏名	外部講師
		所属・職名		氏名	
	発表者	所属・職名	薬学部・教授	氏名	近藤 啓

講演題目	生きたデータを価値ある情報に変換し、迅速な意思決定を可能にする薬学人創生教育
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>薬学部では、薬学科、薬科学科のいずれの学科においても、多様化する社会のニーズに応える人材を育成するうえで、世の中に溢れている莫大な情報から必要なデータを抽出・整理し、素早い意思決定と行動を可能にする能力を醸成することが有用と考える。このような人材育成において有効な手法と考えられているOODAループでは、Observe（見る：周囲を観察し、生きたデータを収集することで、仮説を立案する。ここでは1つの考えに固執せず、柔軟な姿勢を保つようにする）、Orient（分かる：本質理解に基づく状況判断から生きたデータを価値ある情報に変換する）、Decide（決める：意思決定する）、Act（動く：実行する）の一連の動きを繰り返すことになる。本ループを活性化することにより、自己を優位的な立場に置くとともに、より能動的な動きと発信力を備えた薬学人へと成長することが可能になると考えている。本目的を達成するために、以下の取り組みを行った。「薬学講座」では、薬害ヤコブ病被害者家族の思いを知ることで薬学の影の部分や、また、国際的な研究者である筑波大の柳沢教授から睡眠に関する講演を通して薬学の更なる発展を知ることや、薬学人としての向上心と倫理観を学んだ。医療現場の従事者からの専門的な講演を聴講できる機会である「薬物療法研修会」を8回開催した。「薬学概論」では、学内の教員に加え、薬学出身で活躍中の外部講師による講義を通して、社会での役割の広さと活躍の場を学んだ。「早期体験学習」では、1年次の薬局、病院、研究室訪問に加え、2年次における製薬メーカーの訪問を行い、薬を扱う現場と薬を創る現場を体験した。8回開催された「月例薬学セミナー」では様々な研究領域の第一線で活躍する研究者による講演を通して、薬学研究の専門性を学ぶ機会を得た。英語力の向上では、1年次、2年次における英語科目の内容の見直しとTOEIC testの受験を通して自己の英語力の分析の機会を与えるとともに、4年次以降では、科学英語の講義を担当するネイティブ教員を中心に、ICTを活用した教材の積極導入と活用することで、研究発表の資料作成、プレゼン技術、質疑応答対応をトレーニングする機会を提供した。学部学生の総合薬学研究、総合薬科学研究では研究の効率化と質の向上を目指し、人工知能などを利用したデータ整理・解析を通して、結論の導きの加速化を企図した卒業研究テーマが幾つかみられるようになった。以上より、薬学部が提供した多様なプログラムを通して、学生は、様々な学びを体験した。これらの体験は、生きたデータを価値ある情報に変換し、迅速な意思決定を可能にする能力の醸成に繋がるものと期待される。</p>